

空気補充時 および 充てん作業時の

安全徹底を!

毎年、空気補充時やタイヤ組立て時および修理作業に伴う空気充てん作業時に死亡事故を含めた多くの事故が発生しています。

特に特殊な構造のホイールを使用する産業車両用タイヤ、建設車両用タイヤでの空気充てん作業については、注意が必要です。

1

空気圧不足のタイヤに空気を補充する場合

△警告
極端な
空気圧不足
の場合は
四段階は指定空気圧の半分以下

パンクなどによる低空気圧走行で、
タイヤがダメージを受けている
可能性があります。

その状態のままで空気を補充して
タイヤが破裂し、作業者が死傷する
事例が発生しています。

車両からタイヤを外し、
リム解きしてチェック

タイヤサイド部および内面部
に引きずりなどの異常がない
ことを確認した上で安全圏い
の中で空気充てんをしてください。

補充作業時または補充後、
サイド部から異音(プチプチ音など)
が聞こえたら、ただちに作業を中止し、
避難してください。



■実際に起きた死亡事故の例

ガソリントランスタンドで店員が
空気型トランスタンドで店員が
空気を補充して破裂し、死亡したところ

2

空気を入れてパンク箇所を確認する場合

外観を目視しても
わからない場合は

安全圏いに入れた上で、まず100kPa*まで
空気を充てんし、パンク箇所を
確認してください。

パンク
箇所が
見つからない
場合は

基本は
100kPa
まで

リム解きして、
内面からパンク箇所を確認
してください。



但し

トラック・
バス用タイヤ、
小形トラック用
タイヤ
の場合は

安全圏いに入れた状態で、パンク
箇所を確認しながら、少しずつ空
気充てんを行い、充てんと確認を
繰り返してください。
300kPa*になんでもパンク箇所が
わからない場合は、空気充てんをや
め、リム解きして内面からパンク箇所
を確認してください。

*100kPa ≈ 1.0kgf/cm²

3

二つ割りリム



まず空気を
完全に抜く

安全のために車両から取り外す前に
必ず空気を完全に抜いてください。
空気が入った状態でリムボルト・ナットを
緩めないでください。

Point 1

リムボルト・ナット、ホイールの座面が損傷するので、リムボルトの取り外しおよび締め付け作業時にインパクトレンチを使用しないでください。

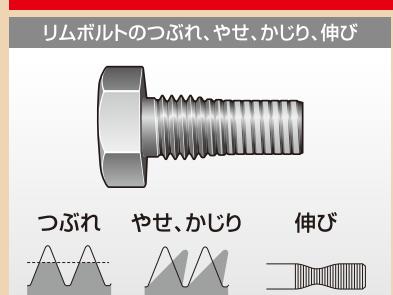
Point 2

リムボルトの取り外し作業後に、ボルト・ナットの潰れ、やせ、摩滅状態等を確認し、異常があるものは新品に交換してください。

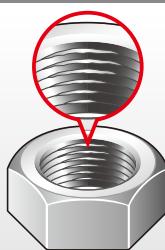
Point 3

ホイールの破損に繋がるので、ホイールの亀裂、ナット座面の荒れなどに注意してください。

異常なボルト・ナット



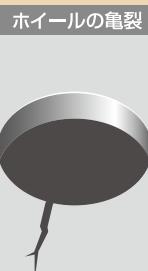
ナットの摩滅



ナット角の摩滅



ホイールの亀裂やナット座面の荒れ

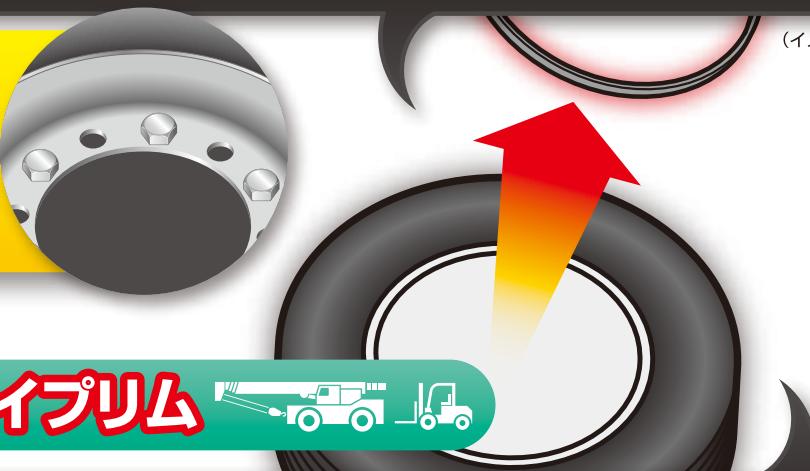


(イメージ)

これらの注意を怠るとリムが飛来する恐れがある

- タイヤとリムの組み立て時リムボルト穴と車両取り付け用穴をまちがえないでください。
- リムボルト用のナットが車両の内側になるように組み立ててください。

(イメージ)



4 ロックリングタイプリム



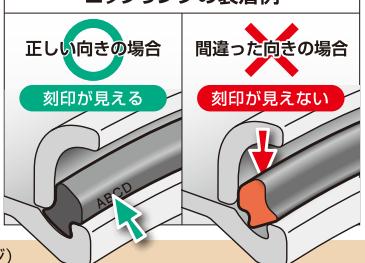
正しく組み付けるないとロックリングが外れ、飛来する恐れがある

Point 1

ロックリングには
向きがある！

ロックリングの向きを間違えると、リムベース（ガター）のロックリング溝に正しく組み付けることができません。

ロックリングの装着例



正しく組み付ける

Point 2

ロックリング
の変形！

変形した状態（例：先端部分の重なりがないもの、先端が極端に開いてしまっているもの等）のロックリングは、正しくかん合されません。変形したものは絶対に再使用しないでください。

変形の判断基準は
車両メーカーまたは
ホイールメーカー
の指示に従ってください。

ロックリング
と
リムのサビ、
変形！

ロックリングおよび
リムのロックリング溝にサビ、変形がひどく、十分なかん合が得られないものは再使用しないでください。



(イメージ)